



# 白桜小だより

平成30年度4月号

中野区立白桜小学校  
校長 宇賀神 佳子  
平成30年 4月 6日発行

## 平成30年度 飛躍の年に ～新たな可能性を求めて～

校長 宇賀神 佳子

校庭の桜が咲きそろい、暖かい風が吹いています。

白桜には、開校当初に植えられた御衣黄桜が、10年の歳月を経て、太く逞しい幹に生長しています。開校の際に、地域・保護者の皆様から寄せられた「桜の名所」としての特色を「桜」の字に残してほしい、そして「清く清々しく生きることを表したい」として「白」の字を付けたい、という願いの下、「白桜」の校名が生まれたと承っています。改めてその願いを受け継ぎながら、確かな教育活動を推進したいと、心を新たにしています。

平成30年度は、白桜小学校が開校して10年の節目の年に当たります。3月22日には49名の卒業生が、白桜小を羽ばたいて行きました。卒業生の総数は439名を数えます。一方新入生の数は、平成27年度より毎年30名程度ずつ増加していて、今年度は84名、児童総数は、451名となり、15学級となりました。

この間、白桜アンサンブルは10代目に引き継がれ、校歌の演奏を毎週の全校朝会で行うほか、ひまわりコンサートや東中野まつりといった地域行事にも演奏披露の場を設けていただきました。楽器の購入や修理等は、保護者や地域の皆様からいただく篤志で賄っています。地域の公立学校として保護者の方々や地域の皆様に支えていただいていることを、子供たちもよく認識しており、このアンサンブルを引き継ぐことが、そのまま白桜小の伝統を担うことであると考えています。卒業生も第10期生を出す今年度ですが、更に充実した活動で地域の一員としての意識を醸成していきたいと考えます。

さて、この10年を節目として成果を実感するとともに、次の10年で学校をどのような姿にしていかが問われています。AIの進歩もあり、平成32年度からの新学習指導要領も「生涯を通して学び続けるために」の観点から、知識・技能を身に付けるだけではなく、子供が自分で課題を見つけ、探究し、思考し、まとめ、その成果を振り返る過程も大変重要としています。一斉指導で与えられたことをそのまま学びとるだけではなく、子供が身に付けた基礎的・基本的事項を基に、思考・判断・表現し、成果を実感して、次の課題に向き合うスパイラルな学びができるようにしなければなりません。そうして得た達成感、自己肯定感が「生きる力」となるのです。まさに「自律する力」「協働する力」「参画する力」の育成こそが、次の時代に求められる教育の在り方であるといっても過言ではありません。

幸いなことに、白桜の子供の読書量が増加し、40000ページを超える読書をする子供も現れました。また作文や感想文、図画工作の分野でも、子供が自分の想いや考えを表し、その作品が表彰されることも多くなりました。中野区内の小学校の代表委員が集まり「どのような学校を創るか」の取組を発表する「児童協議会」では、あいさつ運動を始め、提案型の意見収集等、白桜小の取組が子供の主体性に基づく取組として他校の範になっています。

これらのことから、今年度も次の3つの力の育成に重点を置いて教育活動を充実させます。

- 1 「自律する力」**  
・目標や夢に向かい、自ら学び、自分の考えに基づき、誠実に努力をする。
- 2 「協働する力」**  
・他者の立場や心情を理解しながら、共に取組み、よりよいものを生み出す。
- 3 「参画する力」**  
・自分の役割を自覚し、集団をよりよい方向へ伸ばす。

新たな白桜小の可能性を求めて、学び続ける教員集団「チーム白桜」の力を発揮し、教育活動の充実を図ってまいります。今年度もどうぞご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。